

## 日本臨床発達心理士会千葉支部 2021 年度第 1 回資格更新研修会のお知らせ

日時 2021 年 6 月 27 日(日) 13 時 00 分～16 時 00 分

会場 Zoom による配信 (入室は 12 時 30 分より可能)

千葉支部会員向け研修会(他支部からの参加はできません)

事前参加申込が必要、定員 60 名、参加費 1,000 円、研修ポイント 1 ポイント

テーマ「発達支援における ICT の活用」

講師 加藤 悦子 先生(植草学園大学)

### 要旨

本研修会は、Zoom による配信にて実施します。

学校教育において ICT の活用が求められ、現行の学習指導要領においても、「情報の活用能力」が改訂の重要事項の一つとされています。コロナ禍において、この動きはさらに速度を増してきています。

特別支援教育、発達支援の現場においても様々な試みがなされてきていますが、今回は、こうした具体例を踏まえつつ、加藤悦子先生(植草学園大学)にご講演をお願い致しました。

本研修会を通して、発達支援における ICT の活用において検討すべき事項を考えながら、さらに歩みを進めていければと思います

### ○参加方法

◆千葉支部会員向け研修会で事前参加申込が必要です。

申込受付期間 2021 年 5 月 10 日(月)より 5 月 31 日(月)まで。

氏名、登録番号を明記の上、[jacdpchiba@yahoo.co.jp](mailto:jacdpchiba@yahoo.co.jp) 宛てにメールで送信してください。

参加の可否についてと参加費の振込方法について返信します。先着順に受け付け、定員になりしだい締め切りといたします。

◆2021 年度までの会費が未納の方は参加できません。不確かな場合は必ず申込前に会員情報管理システム SOLTI で確認してください。

◆参加費の振込が完了した方に、研修会資料の配布方法と Zoom への参加方法について、メールで送信します。申込時のアドレスに返信しますので、必ず返信メールが受け取れるアドレスから参加申込をしてください。

◆当日の研修会終了後 1 時間以内に、講義の中にあつた複数の「合い言葉」をメールで送信していただき、研修会参加が完了したことになります。

◆本研修会に参加するためには、Zoom ミーティングに参加するための設備(パソコン、Web カメラ、マイク等)と環境(ソフト、インターネット接続)が整っている必要があります。

◆Zoom に不慣れな方のために、事前に接続・参加のテストをする練習会を設けます。日時と方法については参加者にメールでお知らせします。

## ○確認事項と遵守事項

申込にあたっては必ず下記についてご確認ください。申込いただいた方については下記の確認事項と遵守事項に同意されたものとさせていただきます。

### ◆確認事項

当日の通信状況や参加者の操作ミス等により講義を視聴できなかった場合について、講義内容の再配信は行いません。視聴できずポイントが付与されなかった場合は、参加費を返金いたします。また、参加費振込後にキャンセルをされ視聴しなかった場合も返金をいたします。返金額は参加費から振込手数料を差し引いた金額といたします。

### ◆遵守事項

1. Web 研修会を受講できるのは、受講申込をした本人に限られます。本人の代わりに他人が受講してはいけません。
2. 講義や資料のリンク先の URL を他人に教えたり、SNS やブログなどで公開したりしてはいけません。
3. 講義を撮影、録画、録音、公開をしてはいけません。
4. 講義内容や配付資料を SNS やブログなどに公開してはいけません。
5. 配付資料の電子ファイルを他人に送信したり、コピーを他人に配付したりしてはいけません。
6. その他、倫理綱領に抵触する行為をしてはいけません

(以上の遵守事項は、「士会支部主催のオンライン研修会においてポイントを付与する基準」

2020.8.8 日本臨床発達心理士会執行部会、より)

## 千葉支部 2021 年度第 1 回資格更新研修会 報告

### 2021 年 6 月 27 日(日)13 時~16 時 Zoom 配信によるオンライン研修会

#### テーマ「発達支援におけるICT活用について」

講師 加藤 悦子 先生 (植草学園大学)

竹田 和輝 先生 (北陸先端科学技術大学院大学)

昨年度に引き続き、今年度第 1 回の研修会も Zoom によるオンライン研修会として実施いたしました。研修会当日は、講師の加藤先生、竹田先生がお話し下さった植草学園大学と、配信会場の千葉大学西千葉キャンパスを結び研修を進めました。今回もオンライン研修会にともなう事前準備や参加者数の制約ことを考慮し、千葉支部会員向けとさせていただきましたが、オンライン 3 回目ということで、大きな問題もなく準備から当日の運営まで滞りなく進められ、研修を終えることができました。参加者は千葉支部会員 56 名でした。

今回の研修テーマについては、役員会の中で関心の高い内容として、ICT を発達支援の場でいかに活用していくかということに絞られました。そこで、植草学園大学で関連の講座を新設し、中心となって進めてこられた加藤悦子先生を是非、講師にとの声があがり、今回の研修会の開催に至りました。研修会当日は、ICT をめぐる現状や今後の展望とともに、植草学園大学の加藤先生のゼミの卒業生で、現在、北陸先端科学技術大学院大学に進学されている竹田和輝先生にもご協力をいただき、様々なアプリの紹介などもしていただき、短時間にたくさんの情報をいただくことができました。

研修会の前半は、最近の ICT をめぐる様々な書籍や報道を採り上げながら、加速度的に学校教育に導入が図られ、そのことで期待される効果とともに、子どもの育ち全体を俯瞰しながら、使いこなしていくためには、そのための環境が整備されていく必要があること、目先の便利さだけにとらわれず、子どもたちの学習に促進的に機能するばかりではないことを踏まえて使い方を考えていくことが必要なようです。例えば、読解力の伸長に対して抑制的に働いてしまう可能性、手書きをする方が長期記憶に残りやすい可能性、さらには、SNS 使用の拡大によって、同質の意見ばかりが選択され、異質な考えが入りにくくなる可能性、そして学校教育や家庭教育における格差への対応など、大きな課題が紹介されました。一方で、テクノロジーは進歩し続けており、私たちは新たな知識を吸収しつつ、よりメタ的な、そして長期的な視点で様々な専門領域と協働し、あり方を模索しなければならないことを突き付けられた思いでした。

研修会後半は、例えば、漢字学習において、「とめ」や「はね」などに対して許容度の広い採点が行われることで子どもの意欲をそがずに文字学習が継続しやすいものなど、発達障害のある子どもたちの支援に活用できるアプリ、代替コミュニケーションとして日常的に使いやすいアプリ、作業学習の頒布会などの販売において支援学校の生徒に活用しやすいアプリ、楽しみながら自分の絵本を作ることのできるアプリなど、療育や特別支援教育の場ですぐに活用できそうなアイデアを豊富にご紹介いただきました。

是非、いつか対面という形態で、実際に使ってみながら、もっとじっくり学びたい内容ばかりで、予定の時間があっという間に過ぎてしまいました。 (堀 彰人)